
森の中の私と亀

インヴァイス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

森の中の私と亀

【Nコード】

N8117Y

【作者名】

インヴァイス

【あらすじ】

童話「かめとつなぎ」のファンフィクション・ストーリー。

ある時、森の中を散歩していると亀に会いました。

「亀さん、ごきげんよう」

「やあ、人間さん。ごきげんよう」

「これから何処へ？」

「いえね、ちょっとあの丘のところへ」

亀が向いた先にある丘はとても遠く、とても亀には行ける様には
思えませんでした。

「何でまたあのようなところへ？」

「いえね、約束したんですよ」

「約束？」

「そう、約束」

そういうと亀は一歩足を進めました。

「約束って誰と？」

「ウサギさんと」

「何でまた？」

「いえね、どちらが早くあの丘につけるかという勝負をすることに
なりましたね」

そういうと亀はまた一歩足を前に出しました。

「ウサギさんは何処に？」

「前にいますよ。ほら、あの木のところに」

前にはたくさんのお木がありますが、ウサギさんの姿が見えませ
ん。

「何処にもいませんよ？」

「よく見てごらん。木のところにいるから」

言われるとおりに目を凝らして見てみると亀の言ったとおりウサ
ギは木のところにいました。そしてスヤスヤと居眠りをしていまし
た。きつと勝てると思い一休みしているのでしょう。

「確かにいるね。でも亀さん、あんなところにいるウサギさんにとっても勝てるとは思えませんか？」

「いいんですよ、それでも」

気づけば亀は私よりも少し前にいました。

「それはまだどうして？」

私も亀に追いつこうと小さく一歩前に出ました。

「大切なのは勝つことではなくて約束を守ることなんですよ」
「ほう」

私はおもわず声に出してしまいました。

「ではその約束を守るためにずっと歩いているので？」

「ええ」

亀は相変わらずゆっくりと歩いていました。

おっと、こんな時間ですか。

「亀さん、私は用があるのでお先に失礼。ごきげんよう、亀さん」

「ごきげんよう、人間さん」

私は大きく歩き出しました。亀の言葉に負けないように。

それから暫くしてから、亀がウサギに勝ったという話を聞いたのはまた別のお話です。

(後書き)

お読みいただきありがとうございます

ツイッターの方で情報等を提供していただきますので、よろしければご覧ください

Twitter: [aurainparadox](#)

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8117y/>

森の中の私と亀

2011年11月24日00時50分発行